

**EFEKTIVITAS METODE *COOPERATIVE LEARNING* TIPE *INSIDE-OUTSIDE*
CIRCLE DALAM MENINGKATKAN KEMAMPUAN BERBICARA BAHASA
JEPANG**

**(Penelitian Eksperimen Kuasi Terhadap Siswa Kelas XII IPA 2 SMA Pasundan 2
Bandung)**

Dhiar Rachma Diyanthi

1002769

Abstrak

Penelitian ini dilatar belakangi oleh kurangnya kesempatan siswa untuk berbicara saat pembelajaran bahasa Jepang. Setengah dari sampel menyatakan bahwa selama ini kurang mendapatkan kesempatan berbicara bahasa Jepang dalam pembelajaran bahasa Jepang. Padahal saat ini siswa dituntut untuk dapat berbicara dan berkomunikasi secara global. Dan kemampuan berbicara adalah implementasi dari materi-materi pelajaran bahasa Jepang yang telah dipelajari. Untuk mengatasi masalah tersebut, peneliti mengujicobakan metode *cooperative learning* tipe *inside-outside circle* dalam pembelajaran bahasa Jepang terhadap siswa XII IPA 2 SMA Pasundan 2 Bandung. Tujuan dari dilaksanakannya pembelajaran dengan metode ini adalah agar siswa mampu untuk berbicara dengan bahasa Jepang secara aktif dan menguji efektivitas dari metode tersebut. Penelitian ini menggunakan metode eksperimen kuasi (*pre-test and post-test one group*). Teknik pengambilan sampling dengan cara *random sampling*. Populasi dalam penelitian ini adalah seluruh siswa SMA Pasundan 2 Bandung dan sampelnya adalah 16 orang siswa kelas XII IPA 2 sebagai kelas eksperimen. Instrumen dalam penelitian ini adalah tes dan angket. Dari hasil analisa data tes diperoleh nilai t-hitung sebesar 4,205. Dan dengan db 15 pada tahap signifikansi 5% diperoleh t-tabel sebesar 2,13 dan signifikansi 1% diperoleh t-tabel sebesar 2,95. Karena nilai t-hitung > t-tabel, maka H_0 diterima. Hal tersebut berarti terdapat perbedaan yang signifikan pada kemampuan berbicara siswa sebelum dan sesudah diterapkannya metode *cooperative learning* tipe *inside-outside circle*. Hal tersebut diperkuat dengan hasil angket yang menyatakan bahwa lebih dari setengah responden merasakan pengaruh penerapan metode *cooperative learning* tipe *inside-outside circle* terhadap kemampuan berbicara bahasa Jepang.

Keyword: kemampuan berbicara, metode *cooperative learning* tipe *inside-outside circle*

**THE EFFECTIVITY OF COOPERATIVE LEARNING METHOD TYPE OF
INSIDE-OUTSIDE CIRCLE FOR IMPROVING JAPANESE SPEAKING
ABILITY**

(Quasi Experiment Research to Students of XII IPA 2 SMA Pasundan 2 Bandung)

Dhiar Rachma Diyanthi

1002769

Abstract

This research was motivated by the lack of opportunity to speak Japanese during the class. 50% of the sample stated that they are have a small opportunity to speak Japanese during learning Japanese. Yet, in this time students are required to be able to talk and communicate globally. And the ability to speak is the implementation of Japanese language lessons. To overcome these problems, researcher tested the method of cooperative learning type of inside-outside circle in learning the Japanese language to students XII IPA 2 SMA Pasundan 2 Bandung. The purpose of the implementation of learning with this method is the students are able to speak japanese actively and to test the effectiveness of the method. This research uses a quasi experimental (pre-test and post-test one group). Sampling technique by means of random sampling. The population in this study were all high school students of SMA Pasundan 2 Bandung and the sample was 16 students of class XII IPA 2 as the experimental class. Instruments for this research is a test and questionnaire. From the analysis of obtained data, value t-count of 4,205. And with 15 db at this stage of the 5% significance was obtained t-table by 2.13 and 1% significance obtained t-table by 2.95. Because the value of t count > t-table, then H_0 accepted. This means that there are significant differences in their speaking ability before and after the implementation of cooperative learning type of inside-outside circle. This is reinforced by the results of a questionnaire which states that more than half of the respondents feel the effect of the application of cooperative learning type of inside-outside circle of the ability to speak Japanese.

Keyword: speaking ability, cooperative learning method type of inside-outside circle

学習者の話す能力に対する *COOPERATIVE LEARNING* の *INSIDE-OUTSIDE CIRCLE* タイプの方式の効果

ディアル ラーマ ディヤンティ

1002769

要旨

アンケートの結果によると、半分の学習者は話す機会が上達することになったと答えた。話す能力を上達するために、よく練習しなければならないと思われる。しかし、学習者は日本語の授業中にも話す機会があまりなかったと思われる。さらに、教師が面白くない指導をすれば、学習者の話す動機を持たないと思われる。実際、現在に学習者は世界的にコミュニケーションするため、外来語で話せるはずだと思われる。そこで、本研究には日本語の話す能力の指導するため、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を試みたい。本研究の目的が *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式は学習者の日本語の話す能力に影響を知りたい。*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使用する前のテストと使用した後のテストと比べる。二つのテストから、学習者の日本語の話す能力の違いを明らかにすることである。それに、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式に対して、学習者の感想を知るためである。本研究で使用する方法は、*Quasi Experiment* という方法であり、*One Group Pretest – Posttest Design* を使用する。サンプルは16人で、バンドン第2パスンダン高校の三年生である。データの収集方法としてはテストとアンケートを使用する。データを分析した結果、dbは15で、t得点は4.205でt表は2.13と2.95である。つまり、t得点はt表より高いことが分かる。いいかえれば、学習する前と学習した後の違いがあるということが見られる。アンケートの結果によると、半分以上の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が非常に面白いと答えたが、半分の学習者は話す機会が上達することになったと答えた。半部以下の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が難しいと感じていると答えたが、半分以上の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式は日本語の話す能力に影響を与えると答えた。

キーワード：話す能力、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式

1. はじめに

話す能力ということは話したいことを提供することができることである。しかし、外国語の学習者にとって、日本語で話す時、色々な問題がある。一つの問題は日本語で話す機会があまりないと思われる。授業中にも話す機会があまり十分ではない。さらに、教師が面白くない指導をすれば、学習者の話す動機を持たないと思われる。そのため、その問題を答えるために色々教え方を探すこともある。その一つは *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使用することである。

Cooperative Learning というのは授業の中に学習者がチームワークで勉強するということである。チームワークで勉強するから、授業中で学習者は教師より色々な活動をする機会が多いと思われる。それに、*Cooperative Learning* で色々な日本語能力がある学習者はお互いに助けられると思う。例えば、いい日本語能力がある学習者はまだ良くない日本語能力がある学習者に助けられる。

Cooperative Learning の *Inside-Outside Circle* タイプの方式で学習者が日本語で話す機会が多いと思われる。*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式で学習者が外部丸のグループと奥丸のグループを作って、外部丸のグループは奥丸のグループと向かい合って、別々の話題について話させた。

そこで、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式は日本語で話す能力を上達できるかどうかまだ分からないから、本研究で調査するつもりである。

2. 研究の問題

- a. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前、学習者の日本語の話す能力はどうか。

- b. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使った後、学習者の日本語の話す能力はどうか。
- c. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前と使った後、学習者の話す能力に対する *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式の効果はどうか。
- d. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式に対する学習者の感想が何か。

3. 研究の目的

本研究の目的は問題の設定を答えるためである。次は本研究の目的である。

- a. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前、学習者の日本語の話す能力を明らかにするためである。
- b. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使った後、学習者の日本語の話す能力を明らかにするためである。
- c. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前と使った後、学習者の日本語の話す能力の違いがあるかどうかを明らかにするためである。
- d. *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式に対する学習者の感想を知るためである。

4. 研究の対象者及び方法

a. 対象者

本研究の対象者はバンドン第2パスンダン高校の三年生である。対象者は三年生の IPA 2 クラスで、16人である。

b. 方法

本研究の方法は、*Quasi Eksperiment* という方法であり、*One Group Pretest – Posttest Design* である。

本研究のデザインは次のようである。

0_1	X	0_2
-------	---	-------

0_1 : *Pre-test* (*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前のテスト)

X: 実験

0_2 : *Post-test* (*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使った後のテスト)

5. 研究の用具

データの収集はテストとアンケートを使用する。テストは学習者の日本語の話す能力を明らかにするためである。また、アンケートは *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式に対する学習者の感想を知るためである。

6. データの分析

a. テストのデータ分析の手段

1). *Gain* を計算する

$$Gain = Postest - Pretest$$

2). *Mean Gain* の平均を計算する

$$Md = \frac{\sum d}{N}$$

Md : Pretest および *Postest* 相違の平均

N : 対象の数

3). $\sum xd^2$ を計算する

$$\sum xd^2 = \sum d^2 - \frac{(\sum d)^2}{N}$$

$\sum xd^2$: 標準偏差と平均の相違

4). t 得点を計算する

$$t_{hitung} = \frac{Md}{\sqrt{\frac{\sum xd^2}{N(N-1)}}}$$

(Arikunto, 2010, hlm. 124).

b. アンケートの分析

$$P = \frac{f}{n} \times 100\%$$

データの解釈に用いられる手引は通りである

0%	いない
1% - 5%	ほとんどいない
6% - 25%	一部いる
26% - 49%	半部以下
50%	半分
51% - 75%	半分以上
76% - 95%	かなり多い
96% - 99%	ほとんど全部
100%	全部

(Sudjiono, 2001, hlm. 40-41)

本研究では2014年9月17日に *Pretest* を行った。それで、実験を四回あげた。即ち、2014年9月19日、24日と10月1日、8日に実施した。2014年10月10日に *Posttest* を行った。

a. テストの内容

- 1). *Pretest* は2014年9月17日に *Pretest* を行った。研究者は学習者と問答させた。話すテーマは「別々のうちの様子」についてである。最初は研究者が学習者に一人一人を呼んで、質問を与え、学習者はその質問を答えた。
- 2). 2014年9月19日に第一の実験を行った。2014年9月19日に第一の実験を行った。テーマは「マリアさんの部屋」についてである。話題は「あなたのうち」と「あなたの部屋」と「あなたのだいどころ」と「あなたのいま」が与えた。この実験で、最初研究者は話題を与え、学習者はグループの中に、その話題をディスカッションさせた。それで、学習者は全部二グループを作って、一グループは外部丸のグループであるが、他のグループは奥丸のグループである。外部丸のグループは奥丸のグループと向かい合って、別々の話題について話させた。それで、外部丸のグループは動いて、奥丸のグループはそのままに動かずに、学習者は他の相手を会えた。それで、外部丸のグループは奥丸のグループと向かい合って、別々の話題について話させた。第一の実験に外部丸のグループは四回に動いて、学習者は相手と四回に日本語で話させた。
- 3). 2014年9月24日に第二の実験を行った。テーマは「朝何をしますか」についてである。話題は「朝の活動」と「夜の活動」と「日曜日の活動」と「土曜日の活動」が与えた。この実験で、実験し方は前の実験と同じである。
- 4). 2014年10月1日に第三の実験を行った。テーマは「何時におきますか」についてである。話題は「朝、何をしますか。何時におきますか」と「昼、何をしますか。何時に昼ご飯を食べますか」と「夕方、何をしますか。何時にテレビを

見ますか」と「夜、何をしますか。何時に寝ますか」が与えた。この実験で、実験し方は前の実験と同じである。

5). 2014年10月8日に第四の実験を行った。テーマは「朝ご飯」についてである。話題は「朝ご飯」と「昼ご飯」と「昨日の晩ご飯」と「昨日の昼ご飯」が与えた。この実験で、実験し方は前の実験と同じである。

6). *Post-test* は2014年10月10日に *Post-test* を行った。研究者は学習者と問答させた。話すテーマは別々の毎日の活動について、話題は「何時に~ますか」と「何をしますか」と「何を食べますか」がある。最初は研究者が学習者に一人一人を呼んで、質問を与え、学習者はその質問を答えた。

テストの行う目的は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使う前と使った後に、テストは学習者の日本語の話す能力はどこまであるのかを明らかにするためである。

b. アンケート

アンケートは *Posttest* を終わった後に実施した。アンケートの目的は学習者の感想を知るためである。アンケートの内容は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式に関する選択式の質問が8つであり、エッセイの質問が一つである。

7. 結果及び解釈

	実験前	実験後
平均点	60.312	70
t 得点	4.205	

テストの結果によると、トリートメントを与えられる前、学習者の平均点数は 60.312 点である。四回のトリートメントを与えた後、学習者の平均点数は 70 点である。データの計算結果から db は 15 で、 t 得点は 4.205 で t 表 5 % は 2.13 と 1 % は 2.95 示している。つまり t 得点は t 表より高いということが分かる。 H_0 (ゼロかせつ) は拒否された。いわば、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使用した後、有意義な成果が見られる。

アンケートの結果によると、半分 (50%) の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が日本語の話す機会をよく上達することができると答えた。それから、半分以上 (56,25%) の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が非常に面白いと答えた。半部以下 (31,25%) 学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が難しいと感じていると答えた。

8. 終わりに

a. 結論

データ分析の結果によると、本研究の結論は次のように述べている。

- 1). テストの結果によると、トリートメントを与えられる前、学習者の平均点数は 60.312 点である。
- 2). 四回のトリートメントを与えた後、学習者の平均点数は 70 点である。
- 3). テストによると、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を使用した後、学習者の日本語の話す能力に有意義な成果がある。これは t 得点 = 4.205 > t 表 5 % 2.13、 t 表 1 % 2.95 ($db=15$) 示される。
- 4). アンケートの結果によると、半分以上の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が非常に面白いと答えたが、半分の学習者は話す機会が上達することになったと

答えた。半部以下の学習者は *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式が難しいと感じていると答えた。

b. 提案

日本語の教師のための、学習者の話す能力を上達できて、学習者を動機付けするために、*Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を日本語の授業中に使用することを検討させることが可能である。

他の研究者のための、他の授業に *Cooperative Learning* の *Inside-Outside Circle* タイプの方式を膨らませることが可能である。

選考文献

Arikunto, S. (2010). *Prosedur penelitian suatu pendekatan praktik*. Jakarta: Rineka Cipta.

Sudjiono, A. (2001). *Pengantar evaluasi pendidikan*. Jakarta: Raja Grafindo Persada.